

## 第6学年 体育科学習指導案

日 時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅱ  
児 童 6年2組 男子20名 女子18名 計38名  
指導者 関根 孝男

### 1 単元名 「チャレンジ NEW マットワールド」(B 器械運動 ア マット運動)

### 2 単元について

#### (1) 教材について

「器械運動」領域の「ア マット運動」は、基本的な回転技や倒立技に取り組み、それぞれについて自己の能力に適した技を安定して行う運動であり、その発展技にも取り組む。また、できるようになった技を繰り返したり組み合わせたりすることで、運動の楽しさや喜びに触れることができる運動である。

器械運動の固有の特性は、できないことができるようになる「技の達成」にあるため、個人の技の習得に十分に時間を確保する必要がある。そこで、誰もが難しい技に挑戦できる機会を与えるために、補助者の役割を明確にし、仲間同士で助け合いながら取り組めるようにしていく。

中学校第1学年及び第2学年では、小学校の学習を受けて、「技がよりよくできること」や「自己に適した技で演技すること」が求められ、技の出来映えの質的变化を追求する学習につながっていく。

#### (2) 児童について

本学級の児童は、休み時間になるとボールを抱えて校庭に飛び出す子と、体を動かすことを好まず常に教室で過ごす子に二極化している傾向がある。1学期の「体づくり運動」においては、自分の体力について知り、自分の課題を見つけ、その体力を高める運動に取り組むことで、課題解決の実践力を付ける学習に取り組んだ。並行して行った体力テストでは、意欲的に取り組む子も見られた。「マット運動」に対しては、苦手意識をもっている子が多く、中学年において基本的な回転技や倒立技に取り組み、5年生では、発展技に取り組んだり技を組み合わせた運動に取り組んできているが、開脚前転や開脚後転、側方倒立回転は半数程度の児童しかできていない。また、やりたくない活動に積極的に取り組めず、すぐ遊びに入ってしまう児童もおり、時間いっぱい集中して取り組むことも課題である。

本単元では、ゴールがシンクロマットの発表会であることを伝え、個々では意欲的に取り組めない児童でも、集団で合わせて演技する心地よさを味わうことで、友達と関わることの楽しさや共に頑張ることの価値に気付かせたい。その過程で、今まで出来なかった技が出来るようになったり、進んで安定した技や大きな技に取り組んで行うとしたりする気持ちをもたせたい。

#### (3) 指導にあたって

本単元では、第一次でシンクロマットの演技を体験し、その楽しさに触れさせる。次に、グループで話し合いながら、シンクロマットに入れたい技を考え、1単位時間の前半で習得を目指し、後半では仲間と協力してシンクロマットを創り上げていく。最後にお互いの発表を見合い、技の習熟を確かめ合うとともに、仲間と豊かに関わり合えるようにしたい。

「見通す・振り返る」活動としては、単元の初めに簡単なシンクロマットに取り組むことにより、自分達も工夫して演技を創りたいという意欲をもたせるとともに、単元のゴールを見通すことができると考える。また、毎時間の振り返り際には、展開時にペアやグループ、全体での交流を通して友達の良さに気付いたり運動のコツに気付いたりできるようにする。そして、終末時にはどうしたらできるようになったか、どうしてうまくできないのかを、友達のアドバイスも参考にしながら、記述することで考えさせたい。

### 3 単元の目標

- 大きな回転技や倒立技を身に付け、グループで集団演技を完成させることができるようにする。 【技能】
- 運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動したり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 【態度】
- 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組合せ方を工夫できるようにする。 【思考・判断】

### 4 指導計画(チャレンジ NEW マットワールド: 10時間扱い 本時 8/10)

次	時間	学習活動
一	2	試しのシンクロマットの演技を体験し、シンクロマットの楽しさに触れる。 自分が今できる技を確かめる。
二	1	チーム毎にオリジナルのシンクロマットを考える。
	2	技をするタイミングを工夫し、練習に取り組む。
	2	隊形や技をする方向を工夫し、練習に取り組む。
	1	中間発表会を開き、取り入れる技を見直して練習に取り組む。(本時)
	1	今まで練習してきた演技の完成度を高めるために練習に取り組む。
三	1	シンクロマットの発表会を開き、学習のまとめをする。

5 本時の指導について

(1) 目標

中間発表会で見つけた個々の課題を克服できるよう、仲間と力を合わせて発表会に向けた練習に取り組むことができるようにする。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手立て
態度	仲間と力を合わせて演技し、自分の課題に合った技の練習に取り組もうとしている。	仲間の補助やアドバイスを基に、課題の技に取り組ませる。

(3) 指導の構想

導入では、学習計画を元に本時の学習活動についての見通しをもたせる。

展開前半で中間発表会を行い、その後のグループ毎の振り返りで技の見直しを図り、後半の練習に取り組ませる。終末の振り返りでは、仲間の良い動きや他のグループの見習いたい部分についても考えさせ、次時の活動への意欲をもたせたい。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆見通す・振り返る活動
導入 7分	1. 集合・整列・挨拶をする。 2. 本時の課題を把握する。	全	○ 元気よく挨拶し、気持ち良く授業に臨ませる。 ☆ 単元計画から、これまでの学習を振り返り、本時の中間発表会に臨むことを確認させる。
	中間発表会を開き、取り入れる技を見直して練習に取り組もう。		
展開 33分	3. 場を設定する。		○ めあてを確認したら、素早くマットの準備をさせる。
	4. ストレッチ及びパワーアップタイムに取り組む。(5分) ①ゆりかごタイム ②横跳びタイム ③ブリッジタイム ④倒立タイム 5. 中間発表会を行う。(10分)	個 ペア	○ 首、手首等を中心に関節をしっかり伸ばしてから、パワーアップタイムに取り組ませる。その際、急がず正確に行うようにさせる。 ○ ブリッジや倒立では、ペアで協力したりアドバイスし合ったりして取り組ませる。 ○ ポイントは図で示しておく。 ○ 終わったら、次の発表会の場作りを素早く行うよう指示する。
終末 5分	6. 中間発表会を振り返り、話し合いを基に課題に合った練習をする。(15分)	全 グル ープ	○ 発表する側は、掛け声などをかけながら気持ちを合わせて取り組めるよう励ます。 ○ 見る側は、他のグループの見習いたい部分をたくさん見つけるよう指示し、自分の技に取り入れさせる。 ○ 掛け声や手拍子など、仲間と合わせるための工夫について、よくできているグループを取り上げて賞賛する。 ○ A→B, C→Dへ、積極的に賞賛させたい。また、課題についてもプラスになる表現でアドバイスできるよう声がけをする。 ☆ どこがうまくいって、どこがうまくいかなかったのかを積極的に話し合わせる。 ○ 基本的には、見つけた課題を自分達のマットで練習するが、それを確かめるために中央の方形マットをローテーションで利用させる。 ●【態度】 仲間と力を合わせて自分や自分達の課題に合った技の練習に進んで取り組むことができたか。(観察, 学習カード)
	7. 本時の学習を振り返る。 ・学習カードの記入 ・発表	個 全	☆ 学習カードで個人の技の出来映えについて振り返らせるとともに、シンクロの楽しさや友達の動きのよさで気付いたことも書かせ発表させたい。
5分	・中間発表ではうまく出来なかったけどグループのみんなと練習したら、側方倒立回転ができるようになった。 ・掛け声をかけながらやったら、シンクロできてとても気持ち良かった。		
	8. 次時の見通しをもつ。 9. 場の片付け・挨拶をする。		○ 仲間と力を合わせることで、できない技ができるようになることがあり、そういう子を見つけてどんどん賞賛したい。 ○ 次時では、本時までの学習を振り返り本番に向けて完成度を高める時間であることを確認する。 ○ 協力して素早く片付けをさせる。